

令和2年度

項 目	質問事項	割 合 (%) ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない	考 察
基礎基本の定着	【生徒】 帰りの会で「今日の家庭学習のめあて」を記入し、見通しを持って取り組んでいる。 【保護者】 各教科のテストの活用は基礎基本の習得に効果を上げている。		昨年度、生徒の学習の定着に対する姿勢に大きな改善が見られた項目である。肯定的な評価は保護者に関しては昨年度と同様であるが、「帰りの会における家庭学習のめあての記入」について、生徒は51％であり、10ポイント下降している。基礎基本の定着に向けて、生徒が意欲的に取り組めるよう、さらに教員側も工夫していく必要がある。
家庭学習の習慣化	【生徒】 家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。 【保護者】 自主学習への取組は、家庭学習の習慣を身につけさせる上で効果を上げている。		生徒の81％、保護者の66％が肯定的に評価している。これは、昨年度と比べ、生徒に関しては、ほぼ同様の結果であったが、保護者は4ポイント上昇している。しかし、生徒の肯定的な評価に比べ、保護者の肯定的な評価の割合が低くなっている。今後、さらなる習慣化を図るとともに、家庭学習の質の向上にも力を入れていく必要がある。
授業力の向上	【生徒】 授業は分かりやすい。 【保護者】 授業は分かりやすく工夫されている。		授業が分かりやすいと回答した生徒が昨年度に比べて3ポイント伸びている。保護者に関しても2ポイント上昇している。ここでも生徒の肯定的な評価に比べ、保護者の肯定的な評価の割合が低い傾向が見られる。今後、保護者の評価もさらに向上するよう、分かる授業づくりに向けて工夫改善に努めていきたい。
学習支援・教育相談	【生徒】 学習内容や悩みを、先生に質問したり相談したりすることができますか。 【保護者】 学習内容について、学校は、生徒が質問しやすい雰囲気になっている。		今年度は、生徒の73％、保護者の63％が肯定的に評価している。これは、昨年度と比べ生徒は4ポイント、保護者は6ポイント上昇している。本校のスクールカウンセラーを含めた相談体制や個別支援教室等が昨年以上に生徒のニーズに応える形となり、充実した取組が行われたものとする。
規則正しい生活	【生徒】 「あいさつをする」「服装を整える」「忘れ物をしない」など、気を付けて生活している。 【保護者】 明るくけじめのある学校生活を送っている生徒が多い。		規則正しい生活を送っていると答えた生徒は昨年度と比べて3ポイント下降しているが、保護者では3ポイント上昇している。けじめのある学校生活を送っていると感じている保護者が多くなってきた反面、生徒の意識には相違がみられる。今後、生徒の評価も向上するようTPOに応じた行動ができるよう指導に力を入れていきたい。
プロセスを重視した行事への取組	【生徒】 学校行事に、友達と協力して積極的に取り組んでいる。 【保護者】 学校行事は、仲間作りや学校生活の充実のために工夫されている。		生徒の96％、保護者の87％が行事への取組に対して肯定的な高い評価をしている。生徒に関しては昨年度と同様だが、保護者に関しては2ポイント上昇している。これは、コロナウイルス感染症の対策を講じながら、代替行事を生徒主体で行った成果と思われる。今後も自己肯定感の向上となるような行事に向けて努めていきたい。
地域との連携	【生徒】 地域の人に進んであいさつをしたり、地域の行事に積極的に参加したりしている。 【保護者】 地域の方や保護者に進んで挨拶できる生徒が多い。		生徒の84％、保護者の68％が肯定的に評価している。これは、昨年度と比べ、保護者に関しては同様の結果であったが、生徒は1ポイント上昇している。しかし、生徒の肯定的な評価に比べ、保護者の肯定的な評価の割合が低くなっている。今後、さらに地域に貢献した活動の充実にも力を入れていく必要がある。
安心・安全な学校生活 いじめ防止	【生徒】 学校は、不安がなく落ち着いて生活できる場所になっている。 【保護者】 学校は、生徒や保護者にとって相談できる雰囲気になっている。 【保護者】 学校は、いじめ防止に努めている。		昨年度に比べ生徒の評価が1ポイント、保護者が3～4ポイント上昇している。特に「学校はいじめ防止に努めている」の項目に関しては、4ポイント伸びている。これは、いじめ防止に向けた日頃の取組の成果と思われる。しかし、肯定的な評価に生徒と保護者と相違が見られるため、今後、安心・安全な学校づくりやいじめ防止に向けた積極的な取組をさらに充実させ、問題行動の未然防止と早期対応に力を入れていきたいと考えている。

項 目	質問事項	割 合 (%) ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない	考 察
部活動	【生徒】 部活動は、技術を向上させたり、友達や教員との関係を深めたりするなど、有意義なも…	69 24 6 2	昨年度に比べ、肯定的な評価が生徒では3ポイント、保護者に関しては5ポイント上昇している。コロナウイルス感染症の影響により思うような活動が制限されているが、学校教育における部活動の役割はとて大きいものである。今後、より良い運営に向け、顧問、生徒、保護者が連携し、運営方法の工夫、改善を図っていきたい。
	【保護者】 部活動は、望ましい人間関係の育成や明るく充実した学校生活につながっている。	32 44 14 6 4	
保護者との連携	【生徒】 学校からのたよりや配付物をその日のうちに家の人に見せている。	39 42 14 5	生徒については、5～7ポイント肯定的な評価が上昇している。しかし、約20%の生徒は家の人に配付物を見せたり、学校でのできごとを話したりしていない。今後、配付物については、その日のうちに必ず保護者に渡すよう指導を強化していく必要がある。「保護者と教職員の連携」は昨年度と同様であったが、「学校の様子を伝える工夫」については、8ポイント上昇している。これは、「学年・学級たより」や「学校ホームページ」の取組の成果によるものと思われる。保護者との連携は充実した学校教育を行うためにとても重要かつ必要なことであることを認識し、今後更に保護者や地域と連携しながら教育活動に取り組んでいきたい。
	【生徒】 学校のできごとを家の人に話している。	57 27 11 5	
	【保護者】 学級懇談会や三者面談、家庭訪問、PTA活動等で保護者と教職員の連携が深まっている。	18 50 21 4 7	
	【保護者】 学校の様子を保護者に伝える工夫や努力が感じられる。	23 48 20 5 4	

【全体を通しての考察等】

今年度は、昨年度の結果と比べると、各項目において肯定的な回答が上昇していることがうかがえる。昨年度は、生徒と保護者の評価に相違が見られるものの調査項目10項目のうち下降傾向が5項目あったが、今年度は上昇傾向が7項目、横ばい傾向が2項目、下降傾向は1項目であった。今年度は当初よりコロナウイルス感染症の影響で教育活動を制限し、臨時休業の実施や行事の削減等をせざるを得ない状況であった。しかし、生徒たちが、主体的に代替行事の企画・運営を教職員と連携しながら実施することにより、充実した学校生活を送ることができたばかりでなく、自主性や主体性を身につけることにつながったものとする。本校では、学校生活の改善を図ろうとするSRP(スクールレボリューションプロジェクト)を5年間展開してきた。この取組を継続してきたことが、今回のコロナ禍における生徒主体の活動の成果として現れてきたものと思われる。今後、コロナ禍の学校生活における「新しい生活様式」を意識し、生徒自身がより良い学校づくりに努めていくようSRPをこれまで以上に充実させることが大切である。また、それらを通して規範意識の向上、道德教育の充実、人権感覚を高めるとともに基本的な生活習慣の確立を目指していきたい。

学習面では、昨年度より肯定的な評価が低かった「基礎基本の定着」について、県教委のサポートによる学力向上指導員派遣事業での校内研修を通して、生徒にとって魅力的な授業づくり、分かりやすい授業の展開等の教師の授業改善により基礎学力の定着を図り、今後学力向上に向け、より一層力を入れていきたい。

最後に、アンケート結果を踏まえ、課題を改善していくためには、教職員のみならず保護者や地域の方からの理解と協力が必要になってくる。そのためにも、「地域とともにある学校づくり」を目指し、教職員が一丸となって尽力していきたい。